

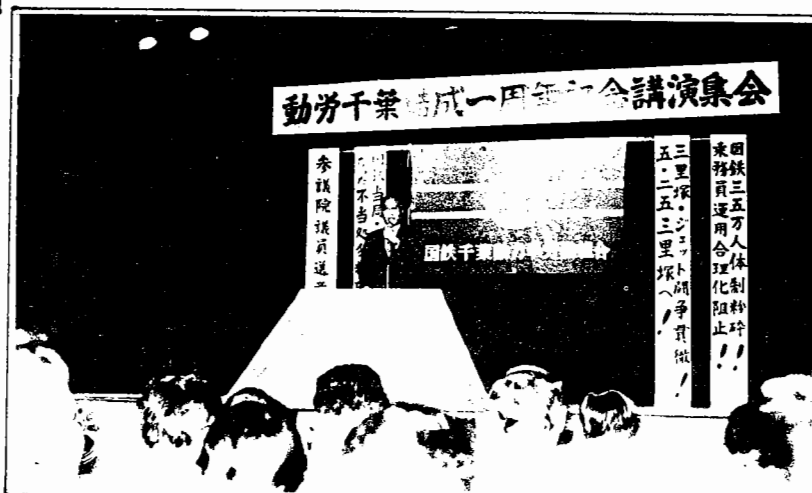
意気高く 結成一周年記念集会 開かる

日刊 勤労千葉

80.5.20
NO.432

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話）二五八一九（公衆電話）（二二）七二〇七



「正義・勝利の一年間」を切り開いた勤労千葉は、四つのスローガンの下、総決起する。

不当処分粉碎！ 五・二五三里塚総決起！ 組織内外、万全の総決起 体制を確立！

五月一七日、労竹若福祉センター大ホールにて勤労千葉結成一周年記念講演集会が、組織内外から三二〇名の結集をもって大成功のうちに勝ちとられ、勤労千葉結成以降一年間の正義と勝利の歩みをはっきりと確認すると共に、不当処分粉碎・五・二五総決起への万全の総決起体制をしっかりと打ち立てた。

『勝利の一年にふまえ、更に飛躍前進を』
『激動の80年代を勝ちぬく勤労千葉へ！』
13時すぎ開会にあたり全員立ち上り、てんやんぱつをつくシユアレヒコール

『不当処分粉碎へ、全力支援に立つ！』
『各界代表が激励・決意のあいさつ』
『盛況のうちにレセフシヨン』

を高橋執行委員の司会のもとでおこなない全体は四つのスローガンのもとに総決起を誓いあった。「国鉄35万人体制粉碎・乗務員運用合理化阻止！」「三里塚・ジェット闘争貫徹・5・25三里塚へ！」「国鉄当局・本部・革マル反動分子一体となった不当処分粉碎！」「参院選勝利！」の歓声がホールを埋めた。

15時半、南執行委員の司会によってレセフシヨンに入った。

西森副委員長の開会あいさつに続き、主催者あいさつにたった奥川委員長は、三里塚Ⅱ反合180年代を勝ちぬく夏の労竹組合めざした勤労千葉一年の歩みの勝利を確認し更なる前進への決意を明らかにした。続いて、支援共闘会議世話人・浅田光輝立正大教授から記念講演が行われた。浅田氏は勤労千葉の闘いを歴史的・階級的に解明し「激動の80年代を全労竹者・人民が勤労千葉のように闘うことが今こそ求められている」と提起した。基調報告に立った中野書記長より「4・15本部」反動分子による暴力スト破り襲撃を口実とする選別的不当処分策動粉碎」を中心とする基調報告が行われ、全員が確信も固く闘いへの決意をうち固めた。

県労連・富塚副議長、社会党小川衆院議員、反対同盟・石橋委員長代行、全南西実行委・永井満代表、労働組合宿所・前田俊彦氏、顧問弁護士・葉山岳夫氏、東京実行委・川田泰代氏、牧師・戸村義弘氏、千葉県労竹協小倉常務理事、全金本山労組・長谷執行委員、全石油スタンダード・ヴァキウム労組・石川中央執行委員長その他の連帯のあいさつが行われ、奥川委員長は乾杯の音頭によって、なごやかな交流・懇談に移った。

奥川委員長もそのメンバーである成田市の労竹者によるアマチュア・バンド「藤崎保」とリズ・ライナーズの演奏・歌・踊りは、奥川委員長のアコディオンで夫人の「十三夜」独唱という特別出演も含め、会場をわかせた。

一周年記念集会は、17時40分、メッセージ・機電の紹介、西森副委員長の開会あいさつ、田中青年部長の指揮による組合歌唱、奥川委員長の音頭による団結ガンバローをもって、全日程を終了した。

ここに我々は、処分粉碎・5・25総決起の準備体制を大きく敷きおえた。あとは思い切り決起するのみだ、いざ、さあ、